

事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-01	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	地域少年育成活動補助	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	渡辺
				内線	3355		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-08-01	地域少年育成活動補助					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）			○建設事業		●それ以外の継続事業	
開始年度	●昭和 ○平成 41年度		根拠	荒川区補助金交付規則			
終期設定	○有 ●無		法令等	荒川区社会教育関係団体補助金交付要綱			
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画		●非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅱ 子育て教育都市					
	政策	04 心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成					
	施策	03 体験学習等の推進					
目的	子どもたちが協調性、生活能力、チームワークを学び、リーダーとして活動できるようにするため、異年齢交流・集団生活・野外生活等のグループ活動を支援する。						
対象者等	荒川区少年団体指導者連絡会（以下「荒少連」と略す）						
内容	<p>それぞれの事業に対し、事業費の一部を補助する。</p> <p>【少年キャンプ（チャレンジキャンプ）】 区主催のチャレンジ共和国に参加した小中学生等を対象に、共和国で学んだことを実地で体験し、生きる力を養うことを目的に、各地のキャンプ場等で実施 ・平成27年度：8月7日（金）～8月9日（日）、国立那須甲子青少年自然の家 ・平成28年度：8月12日（金）～8月14日（日）、国立那須甲子青少年自然の家</p> <p>【子ども会大会】 子ども会に加入している小学生、少年キャンプ参加者等を対象に、各子ども会や子ども同士の交流等を目的にゲームやウォークラリーなどを実施（例年11月末）</p>						
経過	<p>【少年キャンプ・子ども会大会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和38年度 子ども会大会を開始 ・昭和41年度 少年団体指導者研修会（リーダーキャンプ）開始 ・昭和62年度 リーダーキャンプを「チャレンジキャンプ」として拡大 ・平成12年度 荒少連への補助事業としてキャンプと子ども会大会を実施 ・平成26年度～組織改正に伴い、生涯学習課において、教育委員会事務の補助執行として実施 <p>※以下の事業は、平成26年度、スポーツ振興課へ事務移管</p> <p>【わんぱく相撲】 ・昭和49年度 開始 ・平成18年度 実行委員会に対し補助金を交付</p> <p>【鉄人レース】 ・平成13年度 南千住地区の子どもたちを対象に開始 ・平成20年度 実行委員会に対し補助金を交付</p>						
必要性	子どもたちが野外活動やウォークラリー、トライアスロン、相撲等を通して、自主性や協調性、社会性を養うことは、心身の健全育成に大きく寄与するものであり、必要性は高い。						
実施方法	（1直営） （直営の場合 ●常勤 ●非常勤 ○臨時職員） 各主催団体に対し、区が補助する。 【主催団体】荒川区少年団体指導者連絡会						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
		予算額	1,745	1,818	1,818	3,711	2,165	1,357
①決算額（28年度は見込み）		1,739	1,814	1,811	3,710	2,158	1,335	2,320
②人件費等		1,587	2,390	1,900	582	1,159	385	
③減価償却費		726	1,089	742	237	488	171	
【事務分担量】（%）		25	35	23	7	15	5	
合計（①+②+③）		4,052	5,293	4,453	4,529	3,805	1,891	2,320
特定財源	国							
	都							
	その他							
	一般財源	4,052	5,293	4,453	4,529	3,805	1,891	2,320
実績の推移	キャンプ参加者（児童・生徒）	70	64	88	83	78	92	120
	子ども会大会参加者（児童・生徒・育成者）	233	173	164	202	165	164	170
	わんぱく相撲荒川区大会	467	513	530	526	-	-	-
	鉄人レースイン汐入	379	329	335	350	-	-	-

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
旅費	職員旅費	13	報償費	謝礼	8	旅費	職員旅費	19
負担金補助等	少年キャンプ事業補助等	2,145	旅費	職員旅費	23	負担金補助等	少年キャンプ事業補助等	2,301
			使用料等	施設使用料	11			
			負担金補助等	少年キャンプ事業補助等	1,293			

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
標	① キャンプ参加者数	120	119	132	120	120	運営者を含む
	② 子ども会大会参加者数	202	165	164	170	170	
	③ 自然体験事業参加者	0	0	0	50	50	運営者を含む

（問題点・課題分析）	<p>補助対象事業の効果的な実施のため、子どもたちが集団生活から協調性等を学ぶのに適切な人数と期間を設定している。そのため、キャンプについては、準備会も全3回出席できる方を優先受付し、調整を図っている。</p> <p>平成28年度から開始する自然体験事業については、より参加者を絞り、一人ひとりが具体的な自然体験ができるようなプログラムの検討が必要である。</p>
	<p>（実施 16 区 未実施 6 区 不明 0 区）</p> <p>平成25年度調べ</p>

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	団体との連携をより一層密にし、自然体験等の事業を充実していく。	団体役員とともに奥多摩町への実地踏査を行い、自然体験事業の実施について検討した。	団体との連携を密にし、効果的な事業実施に努めるとともに、自然体験事業がスムーズに実施されるよう支援する。
②			
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
継続	継続	子どもたちの健全育成に必要な体験活動を推進するために、補助を継続する。

況議 （要 会 質 問 状）	
-------------------------------	--

事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-02	戦略プラン	<input type="radio"/> 協働	<input type="radio"/> 業務	<input type="radio"/> 財務	<input type="radio"/> 人事
事務事業名	少年教室	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村		
		担当者名	米山・渡辺	内線	3355		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-08-02	少年教室					
事務事業の種類	<input type="radio"/> 新規事業（ <input type="radio"/> 28年度 <input type="radio"/> 27年度）		<input type="radio"/> 建設事業	<input type="radio"/> それ以外の継続事業			
開始年度	<input checked="" type="radio"/> 昭和 <input type="radio"/> 平成 59年度		根拠	荒川区社会教育関係団体補助金交付要綱			
終期設定	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無 年度		法令等	荒川区小学校合宿通学事業補助金交付要綱			
実施基準	<input type="radio"/> 法令基準内 <input type="radio"/> 都基準内 <input checked="" type="radio"/> 区独自基準		計画区分	<input type="radio"/> 計画		<input checked="" type="radio"/> 非計画	
行政評価事業体系	分野	II	子育て教育都市				
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	03	体験学習等の推進				
目的	日頃自ら物を作ったり、汗をかくという直接体験が不足しがちな現代の子どもたちが、学校や家庭では体験できない様々な体験教室に参加することによって、異年齢交流や学校以外の友達づくりのきっかけとなり、地域での自発的な活動につながるとともに、発見の喜びや「自主性・創造性」を伸ばす。						
対象者等	【チャレンジ共和国】小学3～中学生 【少年少女体験教室】小学生3年生以上 【中学生ロボコン】中学1～2年生 【中高生リーダー養成講座】中～高校生						
内容	【チャレンジ共和国】小学生（インフォコース）約150名、中学生（マスターコース）約20名 荒川区少年団体指導者連絡会（以下、荒少連）や青少年委員連絡会との企画会議で内容を決定する。5～6月に計4回実施。工作、レク、調理、化学実験、モノづくりなどを体験する。 【少年少女体験教室】 ・大きな紙ヒコーキを作って飛ばそう（23年度まで「ペットボトルロケットを作ろう」親子15組） ・荒工おもしろ体験教室…3コース（サドプラストのコップ作り・電子工作（ホイスロダー）・うちわ）、各定員30名 ※平成27年度は、荒工のエアコン工事に伴い、1コース（サドプラスト）のみ実施予定。 【中学生ロボコン】定員50名 ロボット製作と競技会を実施。準備会12～1月に6回（最終日高専大会）のほか、北区大会2月、産業展大会3月、エキシビジョンマッチ大会4月 【中高生リーダー養成講座】イベントの企画・運営、レクの実習等を行う						
経過	【チャレンジ共和国】昭和59年度開始 【少年少女体験教室】平成5年度開始 ・荒工おもしろ体験教室：平成12年度開始 ・ペットボトルロケット（高専おもしろ教室）：平成13年度～23年度 ・大きな紙ヒコーキ（高専おもしろ教室）：平成24年度～ 【中学生ロボコン】平成13年度開始 【中高生リーダー養成講座】平成20年度から中高生リーダー研修として実施、平成23年度に改称 平成25年度はスケジュール上の都合で実施なし 【合宿通学】平成11年度に試行的に実施、平成13年度から実行委員会形式で実施し、補助金を支出 ※平成26年度から組織改正により教育委員会事務の補助執行として実施。ただし、合宿通学は教育総務課が実施。						
必要性	直接体験が不足している、子どもの体験活動の機会を増やし、興味や関心を高めるとともに、共同作業を通して協調性や自主性を養う事業であり、必要性は高い。						
実施方法	（1直営）（直営の場合 ● 常勤 ● 非常勤 ○ 臨時職員） チャレンジ、養成講座…共催：荒少連／体験教室…共催：荒工／紙ヒコーキ…協力：産技高専／ロボコン…共催：北区教委、自然科学フォーラム、協力：産技高専／合宿通学…主催：実行委員会						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
		予算額	1,767	1,660	1,678	1,606	801	797
①決算額（28年度は見込み）		907	1,222	1,249	1,103	522	638	797
②人件費等		6,175	9,327	8,330	6,704	5,220	5,443	
③減価償却費		4,038	5,007	6,325	4,157	2,698	3,652	
【事務分担当量】（%）		139	161	196	123	83	107	
合計（①+②+③）		11,120	15,556	15,904	11,964	8,440	9,733	797
特定財源	国							
	都							
	その他							
一般財源		11,120	15,556	15,904	11,964	8,440	9,733	797
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	チャレンジ共和国参加者数	176	226	233	184	236	206	219
	少年少女体験教室参加者数	106	136	113	112	102	58	120
	中学生ロボコン参加者数	48	42	41	48	47	29	50
	合宿通学（参加者数／実施校）	184 / 9	184 / 9	164 / 9	177 / 9	—	—	—

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	謝礼	326	報償費	謝礼	415	報償費	謝礼	515
需用費	消耗品費	196	需用費	消耗品費	223	需用費	消耗品費	274
						使用料等	会場使用料等	8

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
①	チャレンジ共和国参加率（%）	86	83	83	85	85	延べ参加者数／延べ申込者数
②	少年少女体験教室・中学生味'コン（参加者数）	160	149	87	170	170	27年度は会場工事に伴う実施コース減少のため、参加者が減少
③							

問題点・課題 （指標分析）	「チャレンジ共和国」については、毎年定員以上の応募があるため、定員を超えて受入れている。今後も多数の応募が見込まれるため、参加者の安全を確保できるような事業運営を検討する必要がある。 「荒工おもしろ体験教室」は、コースによって参加者に差があるうえ、応募者多数のため抽選となっている。内容を工夫し、対象学年や受入人数を広げるなど、なるべく多くの子どもたちが参加できるようにする。
	（実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区） 類似事業を含む
他区の実況	

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	チャレンジ共和国は、安全のため看護師確保と育成者の応急技術等の向上に努める。参加率向上のため魅力的な講座内容を企画する。	看護師と医薬品を手配するとともに、各班に育成者を複数確保した。新しい講師に依頼するなど講座内容を工夫し参加率向上を図った。	育成者の応急技術の向上に努めるとともに、極力多くの人数を受け入れつつ安全に実施できるよう団体と協議を重ねる。
②	荒工おもしろ体験教室については、実施内容及び定員増について荒工と協議して実施する。	会場（荒工）のエアコン工事の関係でコース数を減らしたため、定員は増員できなかった。	講座を3コース（サンドプラスト・電子工作・パソコンを使った工作）に戻すことと、定員増について荒工と協議する。
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
推進	推進	子どもに多様な体験をさせる事業であり、優先度が高い。

況議 （要旨） 会質 問 状	
----------------------------	--

事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	09-02-06	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	小中学生と乳幼児との交流	部課名	子育て支援部児童青少年課	課長名	根本	担当者名	久松
				内線	3893-2362		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-04-01	小中学生と乳幼児との交流事業費					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）			○建設事業		○それ以外の継続事業	
開始年度	○昭和 ●平成	18年度	根拠	なし			
終期設定	○有 ●無	年度	法令等				
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	●計画 ○非計画			
行政評価事業体系	分野	Ⅱ	子育て教育都市				
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	03	体験学習等の推進				
目的	小中学生が、乳幼児とのふれあいや交流を通じ、子育ての楽しさや生命の尊さ等を体験し、子育てに希望をもてる大人へと成長できるよう支援する。						
対象者等	ひろば館やふれあい館で実施している「乳幼児タイム」等に参加している乳幼児と、小中学校の児童生徒						
内容	各ひろば館を利用する保護者や近隣の小中学校に当該事業を周知し、ひろば館で実施する様々な乳幼児事業へ小中学生の参加を得て、乳幼児との交流を図る。 事業運営にあたっては、小中学生が参加しやすい夏休み等を中心に交流事業の運営を行う。 また、年間を通してひろば館の各種事業等にも継続して参加できるよう、意見を聴きながら活動の機会を広げていく。						
経過	平成16年度に次世代育成支援行動計画の中で、次世代育成について、ひろば館やふれあい館で支援することのできる事業を検討し、新生プランに新規事業として組み入れ、平成17年度は尾久ひろば館で試行。 ○18年度から南千住・花の木・町屋・尾久・西日暮里の各ひろば館で実施。 ○20年度から南千住・花の木・町屋・尾久の各ひろば館で実施。・西日暮里（20年度廃止） ○24年度から花の木・熊野前・西日暮里二丁目の各ひろば館で実施（南千住・町屋・尾久ひろば館は、ひろば館の閉館により廃止）						
必要性	少子化が進む中で、小中学生と乳幼児が交流し、子育ての楽しさや生命の尊さを体験することは、子育てに希望をもてる大人へ成長するうえで必要である。						
実施方法	(1直営) (直営の場合 ●常勤 ○非常勤 ○臨時職員)						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算額		426	156	117	117	111	111	111
①決算額（28年度は見込み）		195	53	88	88	90	98	111	
②人件費等		10,464	11,131	6,719	7,764	6,392	6,381		
③減価償却費		3,486	4,510	3,969	4,698	2,991	3,242		
【事務分担当量】（%）		120	175	123	139	92	95		
合計（①+②+③）		14,145	15,694	10,776	12,550	9,473	9,721	111	
特定財源	国								
	都	子供家庭支援包括補助	202	78	58	44	55	56	56
	その他								
一般財源		13,943	15,616	10,718	12,506	9,418	9,665	55	
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	実施回数	21	21	16	14	17	17	17	
	小中学生参加数	137	141	141	134	262	168	170	

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
需用費	事業用消耗品	68	需用費	事業用消耗品	74	需用費	事業用消耗品	84
役務費	ボランティア保険	22	役務費	ボランティア保険	24	役務費	ボランティア保険	27

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度 見込み	目標値 (28年度)	
標	① 参加小中学校数（小中計）	12	9	13	15	15	実施ひろば館：3館
	② 参加親子（組・人）	311	444	419	480	480	小中学生が参加する乳幼児タイム 参加親子
	③ 実施回数（回）	14	17	17	29	29	実施ひろば館：3館

（問題点・課題 指標分析）	<p>・小中および高等学校との連携を図り、年間を通して様々な企画に取り組むとともに、自発的な参加が継続できるよう、多種・多方面にわたるプログラムを工夫することが求められる。その際、乳幼児との交流活動の意義等についても伝えることが必要である。</p> <p>・交流事業を通じて、世代間の理解を深めるとともに、乳幼児と保護者の継続した参加ができるよう事業内容を検討することが必要である。</p>
	<p>（実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区）</p>
他区の実況	

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む 具体的な改善内容	平成27年度に実施した 改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む 具体的な改善内容
①	年間を通して、交流事業への小中学生の参加の継続を促し、意欲や自信へとつながるよう評価をする。	年間を通して、交流事業への小中高生の参加の継続が見られ、参加児童個々への感謝状送付によってより意欲を持つ様子が見られた。	年間を通して交流事業への小中学生の継続参加ができるよう、事業内容の充実を検討する。
②	小中学生が、自発的に乳幼児との地域交流活動へ参加できるよう、子ども会議等で事業の意義を知らせる。	こども会議等を活用し、小中学生の自発的な意欲を引出、地域活動への参加を促すことができた。	こども会議等において、交流事業の意義を知らせ、自発的に地域交流事業へ参加できるようにする。
③	小中学生と地域の保護者が、交流事業を通して理解・関心を深め、地域交流活動へと発展させる。	小中学生に加え、高校生の参加が増え、地域活動への関心が高まるとともに、地域保護者への理解・関心が深まった。	参加対象児童・学生（高校生）の拡大を図り、交流事業を通して地域保護者への理解と関心を深める。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
推進	推進	次代を担っていく小中学生に、子育ての楽しさを感じる機会を作ること、次世代育成支援策として大変重要であるとともに、地域活動への参加意欲へとつなげる機会となるため、必要である。

況議 （要 旨） 会 質 問 状	
------------------------------------	--

事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	12-01-15	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	合宿通学	部課名	教育委員会事務局教育総務課	課長名	山本	担当者名	宮島
							3312
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-10-01	合宿通学事業費					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）			○建設事業		●それ以外の継続事業	
開始年度	○昭和 ●平成 11年度		根拠	荒川区立小学校合宿通学事業補助金交付要綱			
終期設定	○有 ●無		法令等				
実施基準	□法令基準内 □都基準内 ■区独自基準		計画区分	○計画		●非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅱ 子育て教育都市					
	政策	04 心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成					
	施策	03 体験学習等の推進					
目的	子どもたちが、親元を離れ、異年齢での共同生活や地域での体験活動をしながら通学することにより、家庭の大切さを認識するとともに、協調性や自立心を高め、「生きる力」をつける機会となる。また本事業を通じ、地域・学校・行政が連携していくことで、「地域の教育力」が向上する。						
対象者等	実施校の小学校4年生～6年生						
内容	<p>○事業形態 各実施校単位で町会、PTA、青少年委員、青少年育成地区委員、商店街などによる実行委員会を組織し、企画・運営に当たる。実施に当たっては2～4人のボランティアが共に宿泊し、買い物、食事づくりなどにおいて安全確保と必要な支援を行う。</p> <p>○実施期間 2泊3日～3泊4日程度</p> <p>○宿泊施設 各学校の地元町会会館や商店街会館などを借り、入浴は施設の近くの銭湯へ通う。</p> <p>○地域体験 商店街のお手伝い、朝市のお手伝い、保育園での保育体験、工場見学、地域清掃活動など</p> <p>○経費負担 参加者は受益者負担分（食費・銭湯代・保険料）を負担する。区は実施校で設置する実行委員会に対し、補助金（ボランティア謝礼・布団リース代・事務費等）を交付する。その他、平成14年から独立行政法人国立青少年教育振興機構の「子どもゆめ基金」の助成を受けている。</p>						
経過	<p>○実施の経過</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成13年 実行委員会形式で実施し、補助金を支出 4校（尾久、峡田、尾久宮前、二峡） ・平成14年 6校（尾久、峡田、尾久宮前、二峡、汐入、三峡） ・平成15年 7校（尾久、峡田、尾久宮前、二峡、汐入、三峡、二日） ・平成16年 9校（尾久、峡田、尾久宮前、二峡、汐入、三峡、七峡、二日、尾久六） ・平成17～21年 8校（尾久、峡田、尾久宮前、二峡、汐入、三峡、七峡、二日） ・平成22～25年 9校（尾久、峡田、尾久宮前、二峡、汐入、三峡、七峡、二日、汐入東） ・平成26年 6校（尾久、峡田、尾久宮前、汐入、二日、汐入東） <p>組織改正に伴い平成26年度から、教育総務課に事務を移管（平成25年度までは社会教育課）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年 6校（尾久、峡田、尾久宮前、二峡、汐入、汐入東） ・平成28年 6校（尾久、峡田、尾久宮前、二峡、汐入、汐入東） 実施予定 						
必要性	様々な体験を行うことが不足している子どもの「体験」する機会を増やし、協調性を養うために必要である。「地域の教育力」向上のため必要である。						
実施方法	（1直営）（直営の場合 ●常勤 ●非常勤 ○臨時職員） 主催は各合宿通学実行委員会。各学校が運営を支援。職員は、補助金交付事務、開校式出席、実施に当たっての指導・助言等を行う。						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
予算額				800	800	800	800	
①決算額（28年度は見込み）				597	422	406	800	
②人件費等					920	922		
③減価償却費					488	512		
【事務分担量】（%）					15	15		
合計（①+②+③）	0	0	0	597	1,830	1,840	800	
特定財源								
国								
都								
その他								
一般財源	0	0	0	597	1,830	1,840	800	
実績の推移	事項名							
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
実施校（校）	9	9	9	9	6	6	6	
参加者（名）	184	167	164	177	107	114	120	
ゆめ基金交付額（千円）	502	550	587	550	220	115	448	

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助等	合宿通学事業補助	422	負担金補助等	合宿通学事業補助	406	負担金補助等	合宿通学事業補助	800

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 参加者数（名）	177	107	114	120	180	
	② 実施校（校）	9	6	6	6	9	
	③						

（問題点・課題分析）	<ul style="list-style-type: none"> ・実施校が増えない。 ・学校行事ではないが、学校、特に副校長の負担がある。 ・宿泊を伴うボランティアの確保が難しい。 ・男女が分かれて宿泊できる会場が少ない。 ・宿泊会場（町会事務所等）の老朽化。 ・二重の補助金事務が煩雑となっている。
	他区の実況 （実施 1 区 未実施 21 区 不明 0 区） 江東区（8校） ※台東区は平成24年度まで実施

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	26年度の改善内容を継続して推進し、ボランティアを確保していく。	荒少連等に働きかけることにより、ボランティア確保への支援をすることができた。	信頼のおけるボランティア確保へむけ、青少年団体や青少年委員OB等生涯学習課を通し、引き続き働きかけを行う。
②	ふれあい館の活用を含めて、会場の確保を進める。	町会との関係が薄くなるため、今年度は会場を町会会館のみで行った。	町会の協力を得られるよう、学校とともに働きかけを行う。
③	26年度の改善内容を継続するとともに、PTAや青少年委員の協力、連携を進める。	学校からの働きかけにより、PTAの協力を得ることができた。	学校の負担を軽減するため、実行委員会設置時から事務を含め学校と地域の連携を支援する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
推進	推進	学校・地域・行政が連携し、子どもに多様な体験をさせる事業であり、優先度が高い。

況議 （要旨） 会質 問状	
------------------------	--

事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	12-03-36	戦略プラン	○協働	●業務	○財務	○人事
事務事業名	下田臨海学園	部課名	教育委員会事務局学務課	課長名	相川	担当者名	芦川 内線 3331
事務事業を構成する小事業名 及び予算事業コード（28年度）	01-01-01	管理費					
	01-01-02	給食賄					
	01-01-03	運営費					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）			○建設事業		●それ以外の継続事業	
開始年度	●昭和 ○平成 43年度		根拠	荒川区立夏期学園条例			
終期設定	○有 ●無		法令等				
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	●計画		○非計画	
行政評価 事業体系	分野	Ⅱ 子育て教育都市					
	政策	04 心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成					
	施策	03 体験学習等の推進					
目的	区立小学校の児童が、日頃学校で経験することのできない自然豊かな海辺で規則正しく生活しながら、伊豆地方の地形、産業、海辺の動植物等の観察及び学習並びに水泳を中心とした心身の鍛錬を行うことにより、体力向上を図るとともに、豊かな情操を養うことを目的とする。						
対象者等	区立小学校4年生 (28年度から全校実施。28年度は6年生も実施)						
内容	<p>■学校の夏季休業中、2泊3日で下田臨海学園に宿泊し、外浦海岸海水浴場で水泳を行うほか、海辺での自然観察、磯遊び、レクリエーション等を行う。</p> <p>■平成28年度は、小学校4年生で下田臨海学園を実施し、清里高原学園は休止した。また、小学校4年生の実施後、小学校6年生の希望者を対象に下田臨海学園を実施する。</p> <p>■臨海学園の開設期間は、7月21日～8月19日頃までである。</p> <p>■学校が滞在している間の基準日課（2泊3日）</p> <p>1日目 午前：電車及びバスにて移動 午後：昼食、午睡、遊泳、入浴、夕食、自由時間</p> <p>2日目 午前：朝礼、朝食、自由時間、遊泳 午後：昼食、午睡、遊泳、入浴、夕食、自由時間</p> <p>3日目 午前：朝礼、朝食、自由時間、各校による活動時間 午後：昼食、電車及びバスにて移動</p> <p>■児童1人あたりの標準負担額 約5,500円（交通費約3,500円、賄費2,000円）</p>						
経過	<p>昭和43年 下田市から旧柿崎小学校の施設を買い取り、「下田臨海学園」を開設。 当時は中学校のみ利用</p> <p>昭和48年 小中学校合同利用開始</p> <p>昭和63年 施設を改築</p> <p>平成10年 利用対象を小学校のみに変更</p> <p>平成20年 管理業務及び遊泳監視業務の一部を委託化</p> <p>平成25年 屋内給排水工事を実施</p> <p>平成26年 屋外給排水工事を実施</p> <p>平成27年 トイレ・浴室その外改修工事を実施</p> <p>平成28年 増設園舎を開設</p>						
必要性	夏季休業中の実施であるため児童は任意参加だが、例年9割以上が参加。児童参加率は高く、各学校の取組みも積極的であり、事業の必要性は高い。						
実施方法	(2一部委託) (直営の場合 ○常勤 ○非常勤 ○臨時職員) 夏期学園開設期間中は学務課職員が交代で常駐。遊泳監視員は希望する教諭と業務委託で編成。看護師、給食賄、管理業務は委託。賄・管理業務委託：(株)クックランド(5,088千円)他						

(単位：千円)

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額		56,569	44,591	42,425	78,164	100,703	194,293	133,134
①決算額(28年度は見込み)		51,353	35,211	34,159	70,887	69,720	183,762	133,134
②人件費等		3,488	4,235	2,891	3,327	1,931	3,463	
③減価償却費		1,162	1,555	1,129	1,352	813	1,536	
【事務分担量】(%)		40	50	35	40	25	45	
合計(①+②+③)		56,003	41,001	38,179	75,566	72,464	188,761	133,134
特定財源の推移	国							
	都							
	その他 賄収入	10,485	2,696	2,458	2,830		1,348	
一般財源		45,518	38,305	35,721	72,736	72,464	187,413	133,134
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	参加学校数	18	22	18	21	18	13	
	参加児童数	1,177	1,303	1,196	1,377	1,238	662	

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
旅費	事務従事、児童引率等	558	旅費	事務従事、児童引率等	789	旅費	事務従事、児童引率等	6,548
需用費	光熱水費、消耗品費、修繕費等	9,137	需用費	光熱水費、消耗品費、修繕費等	7,601	需用費	光熱水費、消耗品費、修繕費等	16,056
役務費	清掃手数料、電話料等	703	役務費	清掃手数料、電話料等	676	役務費	清掃手数料、電話料等	1,850
委託料	給食業務、設備保守等	25,673	委託料	給食業務、設備保守等	29,312	委託料	給食業務、設備保守等	42,997
使用料等	温泉使用料、寝具賃借料等	2,670	使用料等	温泉使用料、寝具賃借料等	1,984	使用料等	温泉使用料、寝具賃借料等	42,544
工事請負費	給排水工事	26,892	工事請負費	増設園舎工事等	141,296	備品購入費	厨房機器、椅子・テーブル等	14,911
備品購入費	業務用パソコン	256	負担金補助	参加児童交通費補助等	2,104	負担金補助	参加児童交通費補助等	8,228

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 児童1人当たりコスト（円）	49,124	56,317	277,586	47,780	65,982	歳出決算額（一般財源）／児童数
	②						
	③						

（問題点・課題分析）	<ul style="list-style-type: none"> 「荒川区公共建築物中長期改修実施計画」に基づき、平成25年度～平成27年度に給排水工事を実施した。（玄関アプローチのタイル張替を除く） しかし、経年劣化により毎年小規模修繕が発生しているため、今後も別途対応が必要となる。 平成28年6月末までに増設園舎を設置し、平成28年度の夏期施設から全校実施を行うため、適切な運営が必要である。 管理運営等業務を委託後も光熱水費支払や設備等の保守委託を区が行い、夏期の開設中は区職員を派遣しているなど、業務の非効率が生じている。
	（実施 14 区 未実施 8 区 不明 0 区） 小学校の夏期施設未実施8区の内訳 墨田、大田、中野、杉並、足立、目黒、板橋、練馬

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	老朽化設備及び建具の修繕や更新、災害時用備蓄の追加整備を行う。	老朽化設備及び建具の修繕や更新、災害時用備蓄の追加整備を行った。	増設園舎の設置及び運営方法の見直し、老朽化設備及び建具の修繕や更新、災害時用備蓄の追加整備を行う。
②	保守契約の契約内容の見直しを行い、更なる費用の縮減が可能か検討するとともに、災害時の体制について再検討を行う。	保守契約の契約内容の見直しを行い、災害時等の体制を整備した。	保守契約の契約内容の見直しを行い、更なる費用の縮減が可能か検討する。
③	参加学年変更に伴う運営方法の見直しを行う。	参加学年変更に伴い運営方法を変更した。	小学校4年生の全校実施に伴う運営方法の見直し、小学校6年生の希望者を対象として実施をする。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
推進	推進	水泳を中心とした心身の鍛錬は学校では体験できないものであり、優先度は高い。

況議 （要 旨） 問 状	
--------------------------	--

事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	12-03-37	戦略プラン	○協働 ●業務 ○財務 ○人事	
事務事業名	清里高原学園	部課名	教育委員会事務局学務課	課長名	相川
		担当者名	倉科	内線	3333
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-02-01	給食賄			
	01-02-02	参加児童交通費			
	01-02-03	運営費			
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）		○建設事業		●それ以外の継続事業
開始年度	●昭和 ○平成 58年度		根拠	荒川区立夏期学園条例、荒川区立夏期学園参加	
終期設定	○有 ●無 年度		法令等	費用取扱要綱	
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	●計画 ○非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅱ 子育て教育都市			
	政策	04 心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成			
	施策	03 体験学習等の推進			
目的	豊かな自然の中での生活を経験することにより、自然や動植物を愛する心を養い、現地の地理や歴史に親しんで、理科及び社会科の学習の向上を図る。団体行動やレクリエーションをとおして、相互の友情を深め、他人を尊重する精神を培うとともに、社会生活における規律を学びとる。				
対象者等	小学校4年生 (同時期に実施される下田臨海学園が全校参加となったため、事業休止)				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ◆学校の夏季休業中（7月中旬～8月上旬）、2泊3日で清里高原学園に宿泊し、野外活動・集団体験活動を行う。自己負担額は、交通費約4,000円、食事代2,000円。 ◆平成27年度は、下田臨海学園に峡田・尾久地区、清里高原学園に瑞光・日暮里地区の小学校が参加した。 ◆平成28年度から下田臨海学園の全校実施に伴い、清里高原学園は休止する。 ◆清里周辺には、自然や動物、昆虫をテーマにした施設があり、学校はこうした施設を見学するほか、レタスや桃の収穫体験等を行っている。また、ハイキングコースを歩いたり、現地施設のそばで川遊びを行ったりしている。夜はキャンプファイヤーや花火、レク活動を行っている。 ◆毎年度、実施要項を定めるとともに、実施説明会を開催。また6月上旬には、安全確認、適切な指導を目的に、担当校長と各校の担当教員、学務課職員により実地踏査を行い、現地施設や見学場所の状況、ハイキングコースの状況等を確認している。 				
経過	昭和40年～55年 那須高原荘において林間学園を実施 昭和56年～57年 那須高原荘が区民保養所になるため、清里高原学園建築工事 那須山水閣において林間学園を実施 昭和58年4月 「清里高原少年自然の家」が開設 平成28年度 事業休止				
必要性	夏季休業中の実施であるため児童は任意参加だが、普段の学校生活では体験できない自然の中での野外活動、集団体験活動を行うことができる事業として必要性は高い。				
実施方法	（2一部委託） （直営の場合 ○常勤 ○非常勤 ○臨時職員） 各学校が事業実施。開設・閉設時は学務課職員が現地に赴き調整を行い、期間中は指定管理者が補助。看護師は委託。看護業務委託：(株)イソゲール（448千円）。28年度から事業休止。				

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算額		24,301	19,097	21,069	19,538	22,367	14,374	0
①決算額（28年度は見込み）		19,841	14,477	17,634	17,835	20,196	11,047	0	
②人件費等		1,308	1,694	2,065	3,327	1,545	2,309		
③減価償却費		436	622	807	1,352	650	1,024		
【事務分担当量】（%）		15	20	25	40	20	30		
合計（①+②+③）		21,585	16,793	20,506	22,514	22,391	14,380	0	
特定財源の推移	国								
	都								
	その他	清里高原学園賄収入	2,744	2,696	2,753	2,509	2,740		
	一般財源		18,841	14,097	17,753	20,005	19,651	14,380	0
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	参加校数	22	18	21	18	21	11	0	
	参加児童数	1,375	1,170	1,379	1,255	1,371	619	0	

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
旅費	実地踏査、引率等	74	旅費	実地踏査、引率等	62			
需用費	しおり経費	78	需用費	しおり経費	45			
役務費	応急治療費	24	役務費	応急治療費	4			
委託料	現地看護業務	545	委託料	現地看護業務	447			
使用料等	バス、施設使用料ほか	19,474	使用料等	バス、施設使用料ほか	10,489			

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 児童1人当たりコスト（円）	12,211	12,732	17,846	-	-	歳出決算額（一般財源）／参加児童数
	②						
	③						

（問題点・課題分析）	事業休止のためなし。
	（実施 14 区 未実施 8 区 不明 0 区） 小学校の夏期施設未実施8区の内訳 墨田、大田、中野、杉並、足立、目黒、板橋、練馬

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	児童が安全かつより充実した活動ができるようにするため、実地踏査行程の見直しを行う。	実地踏査の行程を見直したことにより、時間に余裕のあるスケジュールで実施することができた。	事業休止のためなし。
②			
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
推進	休止・完了	同時期に実施される下田臨海学園が全校参加となったため。

況議（要旨） （会質問状）	
------------------	--

事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	12-04-02	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	ふれあい教育の推進	部課名	教育委員会事務局指導室	課長名	小山	担当者名	佐藤・小西・荒井
				内線	3386		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-12-01	ふれあい教育の推進					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）			○建設事業		●それ以外の継続事業	
開始年度	○昭和 ●平成 7年度		根拠	学習指導要領に準拠			
終期設定	○有 ●無 年度		法令等	荒川区街の先生教室実施要綱			
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	●計画		○非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅱ 子育て教育都市					
	政策	04 心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成					
	施策	03 体験学習等の推進					
目的	21世紀を心豊かにたくましく生きる子供たちを育成するためには、多くの人々とふれあう豊かな体験活動が必要である。 そのため、次代の荒川区を担う子供たちに、地域の特性を生かしたボランティア活動や地域体験学習等を取り入れた学校教育を推進し、郷土愛や福祉の精神の涵養などを図るとともに、豊かな心を育成する。						
対象者等	ふれあい教育……………区立全幼稚園、小中学校 小・中学校地域社会体験教室……………区立全小中学校（地域の事業所等での職業体験、ボランティア体験） 街の先生教室……………区立全小中学校（地域人材による学校への出前授業）						
内容	1 「ふれあい教育の推進月間」（区立全幼稚園、小中学校）年間2回（6月、11月） 地域における福祉施設や高齢者施設・異校種等での奉仕活動・高齢者、障害者、特別支援学級、幼児、外国人、地域の方等との交流 2 地域社会体験教室（14年度から小中全校実施、19年度から小学校全校、中学校は希望校で実施） 地域の企業・商店等での職業体験や福祉施設等でのボランティア体験を通して地域を愛する心や思いやりの心を育む。 3 街の先生教室（区立小中学校の全学級を対象） 専門的な技術や、優れた能力をもつ地域の方々を指導者として迎え、子供たちの授業に対する意欲を高めるとともに、地域に目を向け地域に対する誇りを培う。各学級当たり年間1～2回程度実施 4 鮭の里親事業…山形県鮭川村との連携により鮭の稚魚の育成、放流を尾久宮前小と第二日暮里小で実施						
経過	平成7年度から「ふれあい教育」活動を開始し、その後、順次実施している。 平成25年度から、鮭の里親事業は文化交流推進課から移管。 平成26年度から、街の先生教室は学校パワーアップ事業と統合。						
必要性	次代を担う荒川区の子ども達が心豊かにたくましく生きるためには、多くの人々とふれあうことが不可欠である。						
実施方法	（1直営） （直営の場合 ●常勤 ○非常勤 ○臨時職員）						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算額		3,270	2,754	2,746	3,359	1,807	1,859
①決算額（28年度は見込み）		1,791	2,013	2,049	2,483	1,429	1,482	1,862
②人件費等		436	423	519	705	682	770	
③減価償却費		145	156	420	507	488	341	
【事務分担量】（%）		5	5	13	15	15	10	
合計（①+②+③）		2,372	2,592	2,988	3,695	2,599	2,593	1,862
特定財源の推移	国							
	都							
	その他							
	一般財源		2,372	2,592	2,988	3,695	2,599	2,593
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	地域社会体験教室	24	24	24	24	24	24	24
	街の先生教室延べ実施回数	230	229	257	272	272	224	328

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
旅費	引率教員旅費	143	旅費	引率教員旅費	135	旅費	引率教員旅費	171
需用費	消耗品費（令達・幼小）	62	需用費	消耗品費（令達・幼小）	53	需用費	消耗品費（令達・幼小）	72
	消耗品費（令達・小）	609		消耗品費（令達・小）	584		消耗品費（令達・小）	768
	消耗品費（令達・中）	87		消耗品費（令達・中）	95		消耗品費（令達・中）	220
負担金補助等	鮭川村あて負担金	397	負担金補助等	鮭川村あて負担金	500	負担金補助等	鮭川村あて負担金	500
	参加児童交通費	131		参加児童交通費	116		参加児童交通費	131

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度 見込み	目標値 (28年度)	
標	① 中学校ボランティア体験の実施率（%）	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	実施数／学校数
	② 小学校職業体験の実施率（%）	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	実施数／学校数
	③						

（問題点・課題 指標分析）	<ul style="list-style-type: none"> ・明確な視点をもったボランティア活動、多様な職業体験となるような工夫・改善が望まれる。 ・荒川区社会福祉協議会、区民生活部、産業経済部、子育て支援部との連携を図り、本事業の充実に努めていく。
	他区の実況 （実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区） ・街の先生教室や鮭の里親事業は、区独自の事業である。

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む 具体的な改善内容	平成27年度に実施した 改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む 具体的な改善内容
①	キャリア教育に関連する事業の整合性を図るよう検討する。	事業の整合性を図る上で、ボランティア活動や職業体験とキャリア教育や自己の生き方との間の関連性について検討した。	ボランティア活動や職業体験とキャリア教育や自己の生き方とを関連させられるよう、関係機関との連携や働きかけを行っていく。
②			
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
継続	継続	地域と一体となった教育の充実を目指す。

況議 （要 旨） 会 質 問 状	平成10年度 第2回定例会「学校教育にボランティア活動を導入することについて」
------------------------------------	---

事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	●	事務事業コード	12-04-03	戦略プラン	○	協働	○	業務	○	財務	○	人事	○	
事務事業名	体験学習推進事業（学校農園、体験型職業教育の推進）			部課名	教育委員会事務局指導室		課長名	小山		担当者名	佐藤・石井・田中		内線	3386
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-13-01		学校農園											
	01-13-02		体験型職業教育の推進											
事務事業の種類	○ 新規事業（○ 28年度 ○ 27年度）			○ 建設事業		● それ以外の継続事業								
開始年度	○ 昭和 ● 平成			12 年度		根拠		学校指導要領に準拠						
終期設定	○ 有 ● 無			年度		法令等		荒川区学校農園実施要綱						
実施基準	○ 法令基準内 ○ 都基準内 ● 区独自基準			計画区分		● 計画 ○ 非計画								
行政評価事業体系	分野	Ⅱ		子育て教育都市										
	政策	04		心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成										
	施策	03		体験学習等の推進										
目的	<ul style="list-style-type: none"> 自ら課題をもち、自ら考え、自ら解決する等の「生きる力」を育成するためには、体験学習の機会を拡充することが求められている。自然体験、社会体験、勤労体験等の機会拡充を図る。 「総合的な学習の時間」等の学習単位として教育課程に位置付け、児童・生徒一人一人が自己の生き方を考える啓発的体験として、教育活動全体の中で意図的・計画的に取り組む。 													
対象者等	区立小中学校の児童・生徒													
内容	<p>[学校農園] 農園所在地・足立区扇二丁目3878番地 広さ・約1,035㎡</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習等、教育課程に位置づけて実施する。 収穫した作物を給食の食材としたり、栽培した草花を地域の施設に寄贈するボランティア活動に生かしたりする等、他の活動へ発展させることで豊かな人間性を育む。 ・22年度…一日、三日、大門、峡田 ・23年度…一日、三日、大門、峡田、尾久西 ・24年度…一日、尾久宮前、大門、峡田、尾久西 ・25年度…一日、尾久宮前、大門、峡田 ・26年度…一日、尾久宮前、大門、峡田 ・27年度…一日、尾久宮前・大門 ・28年度…尾久宮前・大門 <p>[体験型職業教育の推進] (1) 勤労体験プログラムの実施・平成19年度から、中学校においては、学校と幅広く企業等の協力を得て、一週間程度の集中した「勤労体験留学」を全校実施する。</p> <p>(2) 勤労留学（①職業講話→②職場訪問→③勤労留学（本プログラムの中核）→④新聞作成→⑤発表会・授業時間や夏休み等の1週間程度集中実施（一日6時間程度）・仕事の手伝いではなく仕事そのものを体験する。・子どもたち自身が自己の生き方を考える。</p>													
経過	19年度から勤労留学は、全中学校にて実施している。													
必要性	学校農園については、自然に親しみ、環境保全の意識を高める。体験型職業教育の推進では、働くことの価値を、体験を通して理解する。													
実施方法	（1直営） （直営の場合 ● 常勤 ○ 非常勤 ○ 臨時職員）													

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
予算額	8,212	7,101	6,913	6,503	5,319	5,320	5,230	
①決算額（28年度は見込み）	4,945	5,069	4,952	4,831	4,083	3,487	5,230	
②人件費等	1,308	1,693	684	2,784	1,364	993		
③減価償却費			484	1,352	975	853		
【事務分担量】（%）	15	20	15	40	30	25		
合計（①+②+③）	6,253	6,762	6,120	8,967	6,422	5,333	5,230	
特定財源								
国								
都								
その他								
一般財源	6,253	6,762	6,120	8,967	6,422	5,333	5,230	
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	農園活用校	4	5	5	4	4	3	2
	勤労体験留学実施校	10	10	10	10	10	10	10

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	学校農園指導員謝金	300	報償費	学校農園指導員謝金	300	報償費	学校農園指導員謝金	300
報償費	事業所等謝金	2,370	報償費	事業所等謝金	1,840	報償費	事業所等謝金	2,748
旅費	教員巡回旅費	15	旅費	教員巡回旅費	11	旅費	教員巡回旅費	71
需用費	肥料、種苗、消耗品等	304	需用費	肥料、種苗、消耗品等	296	需用費	肥料、種苗、消耗品等	500
役務費	細菌検査料、保険料	392	役務費	細菌検査料、保険料	411	役務費	細菌検査料、保険料	382
使用料等	バス借上げ	100	使用料等	バス借上げ	30	使用料等	バス借上げ	330
負担金補助等	参加生徒交通費	602	負担金補助等	参加生徒交通費	599	負担金補助等	参加生徒交通費	899

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度 見込み	目標値 (28年度)	
標	① 学校農園実施率（％）	16.7	16.7	12.5	8.3	12.5	実施数／小学校数
	② 勤労留学実施率（％）	100	100	100	100	100	実施数／中学校数
	③						

（問題点・課題 指標分析）	<ul style="list-style-type: none"> 学校農園を実施する小学校数が減少傾向にある。 十分な体験を味わうことができるほどの確実な活動時間が確保されていない。 学校規模により、生徒の人数が多く、勤労留学を受け入れてくれる事業所を探すことに苦勞している。また、5日間連続での受け入れを断られる場合もあり、課題である。
	他区の実況 （実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区） 全区において1日から5日の中学生の職場体験学習を実施している。

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む 具体的な改善内容	平成27年度に実施した 改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む 具体的な改善内容
①	学校農園の活用について、各校へ推進を促す。	学校農園の活用について、各校へ推進を促したものの、活用する学校が1校減ってしまった。	学校農園の活用の促進に向けて、各校の教育課程の適正な実施と体験学習を取り入れることの効果について検討していく。
②	勤労留学を受け入れてくれる事業所の協力を促す。	勤労留学を受け入れてくれるよう、事業所あてに協力を促した。	勤労留学を受け入れてもらえるよう、区役所関連施設に呼びかける。
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
継続	継続	地域と連携し勤労留学を全校実施する。

況議 （要 旨） 問 状	H17.1定 「生きる力の育成の取り組みについて」
--------------------------	---------------------------

事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	12-04-04	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	ようこそ青年海外協力隊	部課名	教育委員会事務局指導室	課長名	小山	担当者名	佐藤・武井
				内線	3386		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-13-03	ようこそ青年海外協力隊					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）			○建設事業		●それ以外の継続事業	
開始年度	○昭和 ●平成 18年度		根拠	ようこそ青年海外協力隊事業運営要綱、独立行政法人国際協力機構東京国際センターとの覚書			
終期設定	○有 ●無		法令等				
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	●計画		○非計画	
行政評価事業体系	分野	Ⅱ 子育て教育都市					
	政策	04 心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成					
	施策	03 体験学習等の推進					
目的	我が国とは異なる歴史や文化、人々の価値観をもつ様々な国々において、技術や知識を活かして開発途上国の国づくり、人づくりに身をもって協力してきた青年海外協力隊員の方々を学校に招き、現地での体験談とともに、子どもたちへの熱いメッセージをいただき、子どもたちの夢や希望を育もうとするものである。						
対象者等	小学校5～6年生及び中学校全学年のうち、任意の学年（学級単位）						
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・青年海外協力隊として海外で活動した経験をもつ方や、JICA職員等を講師に招き、農林水産、土木、建築、教育文化、スポーツ等、7部門140種の分野から、体験談を通して子どもたちの夢や希望を育む。 あわせて、事前の調べ学習や事後の感想文作成等により、一層の効果の向上を図る。 ・実施形態は、講話または交流会とし、一回2時間程度とする。 《これまでの実績》 <ul style="list-style-type: none"> ・「ウガンダが教えてくれたこと」 ・「発展途上国の医療衛生について」 ・「世界の現状を知る」 ・「現地の子どもの環境や教育状況について」 ・「カメルーンやマイクロネシアのあいさつや文化、地理、歴史等」など 						
経過	JICA本部と実施に向けて検討を重ね、平成18年度からモデル授業を行い、全校実施となった。						
必要性	将来に向けて夢や希望をもって、これからの人生を切り拓いていく子どもを育成するために必要な事業である。						
実施方法	(1直営) (直営の場合 ●常勤 ○非常勤 ○臨時職員)						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
		予算額		711	711	684	657	711
①決算額（28年度は見込み）		594	630	585	612	621	531	711
②人件費等		436	0	1,239	253	386	1,154	
③減価償却費		145	0	484	169	163	512	
【事務分担量】（%）		5	0	15	5	5	15	
合計（①+②+③）		1,175	630	2,308	1,034	1,170	2,197	711
特定財源の推移	国							
	都							
	その他							
一般財源		1,175	630	2,308	1,034	1,170	2,197	711
実績の推移	実施校数	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
		34	34	34	34	33	33	34

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	講師謝金	621	報償費	講師謝金	531	報償費	講師謝金	711

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
標	① 実施率（%）	100.0	97.1	97.1	100.0	100.0	実施校数／学校数
	②						
	③						

（問題点・課題分析）	海外青年協力隊の取組について、教育課程の中で位置付けを明確にし、外部講師派遣事業やふれあい教育の推進事業である「街の先生教室」との違いについて明らかにするとともに、児童・生徒に勤労観を醸成させる。また海外の生活の特徴を理解し国際理解の機会を与える。
	（実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区） 本区の独自の取り組みであり、他区には実践例は無い。

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	教育課程への位置付けを明確にし、「街の先生教室」との違いについて明らかにする。	多くの学校で、「総合的な学習の時間」の授業において実施し、国際理解を深めるとともに、「街の先生教室」も適切に実施できた。	これからのグローバル社会を生きていくための資質を高めるために、さらに国際感覚を磨く取組を実施していく。
②			
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
継続	継続	夢を育む事業として定着を図る。

況議 （要 旨） 問 状	
--------------------------	--

事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	12-04-05	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	清里移動教室	部課名	教育委員会事務局指導室	課長名	小山	担当者名	佐藤・阿部
				内線	3386		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-01-01	清里運営費					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）			○建設事業		●それ以外の継続事業	
開始年度	●昭和 ○平成		58年度	根拠	移動教室（清里）実施要綱		
終期設定	○有 ●無		年度	法令等			
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画		●非計画	
行政評価事業体系	分野	II	子育て教育都市				
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	03	体験学習等の推進				
目的	教育課程の一環として移動教室を実施することにより、児童・生徒の自然に親しむ心を培い、自然と文化についての理解を深め、豊かな情感を養う。また、集団行動や集団生活を通じて、連帯感や責任感と自主的な生活態度を育成する。						
対象者等	・小学校5年生、中学校1年生（全員） 【実施時期】前期5月～7月 後期9月～10月						
内容	<p>【活動例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清里周辺施設高根クラインガルテン、須玉町農業体験施設での農業体験やほうとう作り、そば打ち体験、清泉寮及び清里駅周辺散策、飯盛山登山、学園での現地学習会、南牧村交流館見学、井戸尻考古館 ・入笠山登山・オリエンテーリング（清里少年自然の家～美し森展望台）・キャンプファイヤー ・山梨県立科学館での見学、山梨県立考古博物館での火おこし体験や見学 <p>【運営経費】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食費（朝・昼・夕）、施設使用料、バス借上げ（小学校及び中学校各校3日間）、現地指導員謝金、引率教員・従事職員旅費、応急治療費、緊急乗用車借上げ、看護業務委託 						
経過	昭和58年から実施している。						
必要性	児童・生徒の自然に親しむ心を培い、自然と文化についての理解を深め、豊かな情感を養うため、また、集団生活を通じて、連帯感や責任感と自主的な生活態度を育成するために必要である。						
実施方法	（2一部委託）（直営の場合 ○常勤 ○非常勤 ○臨時職員） ・看護業務委託（27年度委託料（決算額）1,979,337円（清里分989,669円）、（株）ナイチンゲール）						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額		37,485	34,489	35,303	35,975	38,874	54,364	57,282
①決算額（28年度は見込み）		30,313	28,927	30,255	32,902	37,652	43,964	57,282
②人件費等		2,581	3,359	1,896	2,025	2,070	3,347	
③減価償却費		1,453	1,866	2,259	2,366	2,276	3,754	
【事務分担当量】（%）		50	60	70	70	70	110	
合計（①+②+③）		34,347	34,152	34,410	37,293	41,998	51,065	57,282
特定財源	国							
	都							
	その他	清里高原移動教室賄収入	4,747	4,454	4,767		4,896	4,871
一般財源		29,600	29,698	29,643	37,293	37,102	46,194	52,241
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	小学校 参加児童数	1,340	1,285	1,297	1,363	1,338	1,344	1,322
	バス借上げ台数（実踏含めず）	45	44	43	47	46	44	45
	中学校 参加生徒数	1,033	943	1,087	1,106	1,108	1,093	1,089
	バス借上げ台数（実踏含めず）	33	29	35	35	37	38	41

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	現地指導員謝金	224	報償費	現地指導員謝金	224	報償費	現地指導員謝金	464
旅費	実地踏査、引率教員・従事職員旅費	139	旅費	実地踏査、引率教員・従事職員旅費	79	旅費	実地踏査、引率教員・従事職員旅費	1,256
需用費	児童用しおり、生徒読本	406	需用費	児童用しおり、生徒読本	445	需用費	児童用しおり、生徒読本	645
役務費	応急治療費	16	役務費	応急治療費	18	役務費	応急治療費	75
委託料	看護業務委託	1,080	委託料	看護業務委託	990	委託料	看護業務委託	1,770
使用料等	給食費、施設使用料、バス借上げ	35,787	使用料等	給食費、施設使用料、バス借上げ	42,208	使用料等	給食費、施設使用料、バス借上げ	53,072

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度 見込み	目標値 (28年度)	
標	① 児童参加率（％）	97.3	98.1	97.7	100	100	参加者/在籍者（5月1日現在）の割合
	② 生徒参加率（％）	96.2	103.4	99.2	100	100	参加者/在籍者（5月1日現在）の割合
	③						

（問題点・課題分析）	①児童・生徒の事前の健康管理を十分に行う必要がある。 ②体育館のスポーツ器具・用具の老朽化が進み、使用できないものがある。
	（実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区）
他区の実況	

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	食物アレルギー、けが及び事故等の情報を共有化し、学校との連携を図り、安全な移動教室の実施を図る。	移動教室中のけが及び事故等に迅速に対応し、安全に実施することができた。	引き続き、児童生徒が安全に生活できるよう、危険箇所・気象状況・食物アレルギー等の運営上重要な情報を共有していく。
②	児童生徒にとって危険箇所や利用が不便な箇所の改善を施設管理者の生涯学習課に依頼する。	管理者による施設管理が徹底されており、利用者にとって使用しやすい環境が保たれていた。	引き続き、児童生徒が使用しやすい環境を維持するよう、生涯学習課に対して働きかけを行う。
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
継続	継続	学校の創意工夫を支援し充実させる。

況議 （要 旨） 会 質 問 状	
------------------------------------	--

事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	12-04-06	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	下田移動教室	部課名	教育委員会事務局指導室	課長名	小山	担当者名	稲富・石井
				内線	3388		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-01-02	下田運営費					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）			○建設事業		●それ以外の継続事業	
開始年度	●昭和 ○平成		58年度	根拠	移動教室実施要綱（下田）		
終期設定	○有 ●無		年度	法令等			
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準			計画区分	○計画 ●非計画		
行政評価事業体系	分野	Ⅱ	子育て教育都市				
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	03	体験学習等の推進				
目的	教育課程の一環として移動教室を実施することにより、児童・生徒の自然に親しむ心を培い、自然と文化についての理解を深め、豊かな情感を養う。また、集団行動や集団生活を通じて、連帯感や責任感と自主的な生活態度を育成する。						
対象者等	・小学校6年生、中学校2年生（全員） 【実施時期】前期5月～7月 後期9月～10月						
内容	各小・中学校が教育内容に工夫を凝らして実施している。 【活動例】 ・須崎～爪木崎ハイキング ・下田市内散策 ・寝姿山登山（ロープウェイ） ・河津七滝巡り ・外浦、爪木崎、恵比須島、まどが浜、田牛サンドスキー場等での磯生物観察、レクリエーション等 ・あじの開き、海草押し葉、竹細工、シーカヤック等の体験学習 ・現地指導員学習会 ・魚市場見学 ・施設見学等（下田海中水族館、小田原城址公園、柿田川湧水、修善寺サイクルスポーツセンター、地球博物館） 【運営経費】 ・給食費（朝・昼・夕）、バス借上げ（小学校及び中学校各校3日間）、現地指導員謝金、引率教員・従事職員旅費、応急治療費、緊急乗用車借上げ、看護業務委託（平成16年度から委託契約）						
経過	昭和58年から実施している。						
必要性	児童・生徒の自然に親しむ心を培い、自然と文化についての理解を深め、豊かな情感を養うため、また、集団生活を通じて、連帯感や責任感と自主的な生活態度を育成するために必要である。						
実施方法	（2一部委託）（直営の場合 ○常勤 ○非常勤 ○臨時職員） ・看護業務委託（27年度委託料（決算額）1,979,337円（下田分989,668円）、(株)ナイチンゲール）						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
		予算額	40,794	42,238	38,823	40,980	41,884	58,295	60,227
①決算額（28年度は見込み）		33,688	36,135	33,913	34,822	39,957	45,985	60,227	
②人件費等		7,067	5,178	1,896	2,025	2,070	3,347		
③減価償却費				2,259	2,366	2,276	3,754		
【事務分担量】（%）		210	190	70	70	70	110		
合計（①+②+③）		40,755	41,313	38,068	39,213	44,303	53,086	60,227	
特定財源	国								
	都								
	その他	下田移動教室賄収入	4,485	4,718	4,533	4,721	4,861	4,760	4,956
一般財源		36,270	36,595	33,535	34,492	39,442	48,326	55,271	
実績の推移	小学校	参加児童数	1,194	1,320	1,305	1,306	1,377	1,334	1,379
		バス借上げ台数	42	45	44	43	46	46	45
	中学校	参加生徒数	1,050	1,042	1,172	1,055	1,055	1,046	1,110
		バス借上げ台数	62	70	62	64	64	34	34

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	現地指導員謝金	189	報償費	現地指導員謝金	180	報償費	現地指導員謝金	216
旅費	実地踏査、引率教員・従事職員旅費	453	旅費	実地踏査、引率教員・従事職員旅費	485	旅費	実地踏査、引率教員・従事職員旅費	2,093
需用費	生徒用しおり、生徒読本等	569	需用費	生徒用しおり、生徒読本等	641	需用費	生徒用しおり、生徒読本等	841
役務費	畳乾燥、応急治療費	466	役務費	畳乾燥、応急治療費	476	役務費	畳乾燥、応急治療費	569
委託料	給食業務委託	15,437	委託料	給食業務委託	15,322	委託料	給食業務委託	15,793
委託料	看護業務委託	1,002	委託料	看護業務委託	989	委託料	看護業務委託	1,633
使用料等	バス・寝具借上げ	21,841	使用料等	バス・寝具借上げ	27,892	使用料等	バス・寝具借上げ	39,037

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度 見込み	目標値 (28年度)	
標	① 児童参加率（％）	98.0	95.1	98.0	100	100	参加者/在籍者（5月1日現在）の割合
	② 生徒参加率（％）	95.7	94.0	96.1	100	100	参加者/在籍者（5月1日現在）の割合
	③						

（問題点・課題 指標分析）	①児童・生徒の事前の健康管理を十分に行う必要がある。 ②下田臨海学園の施設の老朽化が進み、その対策が課題である。 ③施設への害虫の侵入に関して対策が必要である。
	（実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区）
他区の実 状況	

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む 具体的な改善内容	平成27年度に実施した 改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む 具体的な改善内容
①	食物アレルギー、けが及び事故等の情報を共有化し、学校との連携を図り、安全な移動教室の実施を図る。	食物アレルギー、けが及び事故等の情報を共有し、学校との連携を図り、安全な移動教室の実施を図った。	引き続き、学校との連携を図り、食物アレルギー、けが及び事故等の情報を共有して、安全に移動教室を運営していく。
②	限られた財源の中で、学務課と連携して小破修繕の優先順位をつけ、修繕計画を立てる。	学務課が下田臨海学園の園舎の改修工事を行い、施設の設備の改善が図られた。	引き続き、児童生徒が使用しやすい環境を維持するよう、学務課と連携を図っていく。
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
継続	継続	学校の創意工夫を支援し充実させる。

況議 （要 会 質 問 状	
------------------------------	--